

令和2年度教育研究活動報告書

氏名	原卓史	所属	芸術文化学部日本文学科
学位	博士（文学）	職位	准教授
専門分野	日本近現代文学		

I 教育活動			
本年度担当科目			
	授業科目		
学部	日本の文学、日本語表現法、日本文学史、近現代文学専門演習、日本文学講義、日本文学講読		
大学院	研究指導（論文指導）		
II 研究活動			
現在の研究テーマ（3つまで）			
（1）坂口安吾・太宰治などの研究			
（2）歴史・時代小説研究			
（3）カストリ雑誌研究			
本年度を含む過去3年間の研究業績 R2・R1・H30			
R2	〈論文〉「耽綺社のメディア戦略／メディアの耽綺社戦略—『サンデー毎日』を中心に—」（副田賢二・代表『戦前期『サンデー毎日』研究成果報告資料集』二〇二〇年一〇月） 〈書評〉「関谷一郎『シドクⅡ—太宰・安吾に檀・三島—』（鼎書房 二〇一九年一月）」（『坂口安吾研究』二〇二一年三月）		
R1	〈論文〉「白石一郎「海狼伝」の移動—〈間〉に立つために—」（『尾道文学談話会会報』二〇二〇年二月） 〈資料紹介〉「『好色文庫』総目次」（『尾道市立大学芸術文化学部紀要』二〇一九年三月） 〈展覧会資料〉「坂口安吾主要居住地・旅行先早見地図」（『小田原文学館特別展「坂口安吾」ができるまで』小田原市立図書館 二〇一九年六月）		
H30	〈論文〉「坂口安吾「墮落論」の反響—文学史のゆくえ」（『尾道市立大学日本文学論叢』二〇一八年一二月） 〈資料紹介〉「『オール不夜城』総目次」（『尾道市立大学芸術文化学部紀要』二〇一八年三月） 〈研究動向〉「時代小説」（『昭和文学研究』二〇一八年九月）		
H29以前の主な研究業績			
（1）〈単著〉『坂口安吾 歴史を探偵すること』（双文社出版 二〇一三年五月）			
（2）〈編集協力〉越前谷宏他編『田中英光事典』（三弥井書店 二〇一四年四月）			
（3）〈論文〉「安吾と飛騨—「夜長姫と耳男」への道程」（『坂口安吾研究』二〇一四年一二月）			
（4）〈論文〉「坂口安吾「風と光と二十の私と」論—教室のなかの「私」／小説家になった「私」」（『芸術至上主義文芸』二〇一四年一月）			
（5）〈論文〉「坂口安吾「墮落論」論—武士道をめぐって」（『尾道市立大学日本文学論叢』二〇一六年一二月）			
学会、所属団体における活動（本年度を含む過去3年間の研究業績） H30・R1・R2			
所属学会・所属団体 役職等と任期			
所属学会：日本近代文学会、昭和文学会、芸術至上主義文芸学会、坂口安吾研究会、横光利一文学会 役員等：坂口安吾研究会運営委員長（二〇一八年九月～現在に至る）			
IV 社会活動			
1. 学外活動（本年度1年間の活動状況）			
（1）「坂口安吾研究会二十周年記念座談会」（登壇者）浅子逸男、大國真希、鬼頭七美、宮澤隆義。 （基調報告）山根龍一。（Zoom管理）時野谷ゆり。（司会）原卓史、福岡弘彬。 （主催・坂口安吾研究会 二〇二〇年一二月六日 Zoomによるオンライン開催）			
公開講座	回		
その他（座談会の司会）	1回		
2. 委員会及び協議会委員（本年度1年間の活動状況）			
	委員会等の名称	委員長・委員等の別	出席回数（回）
（2）尾道市以外	坂口安吾研究会運営委員会	委員長	3回